

港湾都市情報サービス編

「港湾都市 1982 No. 2」

—特集 川崎・横須賀と沿岸域の管理—

斎藤 公助

(日本倉庫協会)

1. はじめに

わが国の主要都市の多くは、歴史的にみて港湾を出発点として形成、発展されてきており、今日でもなお、多くの都市は、港湾を育みつつ、一方では都市集積と、その都市ならびに自治体の成長にともなって独自の都市像を形成している。

いま、新しい都市像を探求するにあたって、まず臨海部の開発、利用は戦略的にも重要な要素となっている。同時に、港湾都市をめぐるいろいろな問題、さらには共通する課題は山積している現状にある。

こうした情勢のなかで、これまでの行政の枠組みにとらわれない発想で、港湾をもっているそれぞれの都市の姿を構想し、考えて行こうとするのが、本書「港湾都市シリーズ」の意図であり、また本書のねらいでもある。

なお、本書の企画編集ならびに発行を行なっている「港湾都市情報サービス」では、昨年(昭和56年)に、まず第1巻(No.1)として「港湾都市横浜」を採り上げ刊行したが、本書はその第2巻(No.2)であり、これがメインテーマとして「川崎・横須賀と沿岸域の管理」を掲げている。

ここで一言、港湾都市情報サービス(代表 千須和富士夫)についてふれるならば、同法人(株式会社)は、現在横浜にあり、先年「港湾経済研究所(代表 高見玄一郎)から分離独立したもので、これまでも港湾を中心とした諸問題について幅広く調査・研究を行なっているものである。

なおまた、本書は一応種々の事情で雑誌の形を採っており、さらに筆者はそれぞれ数多くの官民、学識経験者などによってなされている。しかし、その内容はまとまっており、事実上新刊図書といっても差支えないものであろう。

2. 本書の内容と構成

本書の内容はつぎのようになっており、その項目構成、すなわち収録された数多くの論説、調査研究、さらにはレポートなどからでも一応うかがい知ることができる。

目 次

(地域研究)

- ・川崎市の都市整備と交通課題 橋 本 敏 男
- ・川崎市都心地区の都市再開発の動向 小 島 勲
- ・マイコンシティ構想と川崎の産業構造改革 編 集 部
- ・新百合丘駅周辺開発計画 ”
- ・横須賀市の都市づくりと交通体系 井 上 吉 隆
- ・追浜駅市街地再開発事業と追浜地区整備 編 集 部
- ・安浦地区埋立と横須賀港整備 ”
- ・基地横須賀と原子力防災 服 部 学

(沿岸域の管理)

- ・沿岸域問題と港湾整備 長 尾 義 三
- ・沿岸域生態系と環境管理計画 桑 原 進
- ・沿岸域と地震津波対策 菊 池 正 幸

(調査報告)

- ・東京湾港湾計画の基本構想について 塩 澤 俊 彦
- ・東京湾海洋構造調査 山 本 隆 司

(技術情報)

- ・深層混合処理工法 寺 師 昌 明
- ・多目的利用人工島の建設 鈴 木 正 勝
(岩 伸一郎
- ・海岸地形の解析システム 宗 像 義 之
- ・ニューテクノロジー入門「バイオマス」 草 薙 昭 雄

(資 料)

- ・横浜みなと未来「21」(都心臨海部総合整備計画)の水際線変更

横浜市都市計画局

3. おわりに

いま、これら論説ないしは調査研究について個々にくわしく紹介するには紙面の都合でできないが、概していうならばやや総花的なきらいもないではないが、しかし川崎・横須賀という地方都市を中心に、巾広くこれを捉えていることである。しかも、多くの気鋭の筆者によって描かれていることである。

さらに、ここで本書の特長ともいえるものをつけ加えるならば、単に港湾という狭い範囲にとどまらず、都市再開発など都市づくりにも及んでいることである。さらに加えて、沿岸域(陸でも水域でもない第3の新たな国土空間、すなわち陸地と水域と

て構成されたものを指す)について問題提起をしていることであり、さらにはまた、例えば「深層混合処理」システムなど新しい技術情報をいくつか提供していることである。

したがって、本書は広く港湾にたずさわるものは勿論、港湾・都市問題に関心あるものさらにはまた、港湾を学ぼうとするものにとっては必読の資料であるといえよう。(港湾都市情報サービス編 「港湾都市 1982 No.2」 昭和57年7月 (株)港湾都市情報サービス 定価 2,000円)